

「環境教育インストラクター応募資格取得セミナー（福岡会場）」事業を実施！

実行委員会委員長報告

ふくおか環境カウンセラー協会理事 近藤 哲司

【はじめに】

平成27年の10月24日（土）の理事長からの1通のメールがすべての始まりでした。「環境教育インストラクター応募資格取得セミナーを年度内に福岡で開催したいと思います。ECUからの要請と受講者がいるため。」との内容とともに具体的な日程2案と立ち上げる実行委員会の委員長就任を打診されました。

今年度の夏から「広く会員からの声を聴き、協会の運営の風通しを良くしよう」と月イチで定例会を始めた矢先の出来事でした。

具体的な活動目標があるわけでもなかった定例会に、急遽降って湧いたような大きなプロジェクトに「新たな運営の試みを始めたばかりなのに、メンバーが一丸となることができるのか」という思いがよぎりました。

しかし、依田丸は既に出航しており、目的地に向かって舵を切っていたので「時間がない」との言い訳はできない状態でした。退路を断たれたクルーは必然的に一丸となり、それぞれが持てる力を発揮し、何とか積み荷を降ろすことができるように協力することとなりました。

【セミナー初日】



受付後、受講者を指定の席に誘導



主催者あいさつ・講義1（依田理事長）

講義1では、依田理事長から持続可能な開発のための教育（ESD）を念頭に置いた解説が行われました。持ち時間内にきちっと要点を押さえ、説明し終えるのは「さすがプロフェッサー」と感嘆しました。

講義2では、講師の力武氏から、実践に基づく含蓄のある「安全対策」についての心得が



講義2（力武環境カウンセラー）



講義3（森本副理事長）

伝授されました。印象に残ったのは、「活動をしたら、すぐに報告書を作成すること。そのことが次に活きる」とのお言葉でした。

講義3では、森本副理事長から、大規模なイベントの統括や指導者の育成を手掛けてきた経験に基づき、なぜ環境教育が必要なのか等の話がありました。衝撃的だったのは、パワーポイントの説明に記載されていない行間を淡々と語れる知識の深さでした。



実践事例1（三苦理事）



実践事例2（原賀環境カウンセラー）

実践事例1では、三苦理事から、自身のプロフィール紹介に始まり、環境問題については総論から入り各論につなげる展開がわかりやすいこと、行政その他との連携、補助金の上手な取り方など実践に則した講義をしていただきました。

実践事例2では、講師の原賀氏による「布絵シアター」の再現でした。受講者やスタッフを自在に扱うなど持ち前のスキルをふんだんに発揮されていました。

持参した「さとやまどうぶつえかきうた」関連のグッズをさりげなく紹介するあたりは、団体トップとしての経営手腕の一端も見せていただきました。

【セミナー2日目の模様】

環境カウンセラー全国連合会（ECU）の佐々木理事長による挨拶がありました。

このセミナーは、東京・大阪以外では初の地方開催研修会です。大変お疲れですが、貴重な自己研鑽の機会ですので、ぜひ、最後まで頑張ってください。（要約）



主催者あいさつ（全連 佐々木理事長）



実践事例4（矢野環境教育インストラクター）



総合司会（近藤理事）

実践事例3では、講師の松崎氏から「エコドライブ」の実践報告と今後の動向についてご説明をしていただきました。司会者が進行管理に追われる中、今回のセミナーで唯一質疑応答の時間を作っていただき、受講者の質問にも懇切丁寧にご回答いただきましてありがとうございました。

実践事例4では、講師の矢野氏から、「草笛」を使った児童と保育士向けの環境教育の再現と解説をしていただきました。導入の部分で、草笛を吹きながら入場するなど、「掴みはOK」でした。参加型の事例紹介は本当に盛り上がります。



ワークショップ（班別討議）



ワークショップ（発表）

初日のセミナー終了時に、受講者への宿題として「環境教育指導計画書」の下書きをお願いしました。持ち寄った下書きを班員で回覧し、コメントを付箋に記入する作業を行いました。このワークショップの狙いは、「共に学び、共に教えあう」といった指導者としての心得を再認識していただくことにありました。

一周して手元に戻ってきた下書きを各自読み返し、変更点を新たな用紙に記入し直し、互選で決まったその班の代表による発表を行いました。自分の進める計画を客観視でき、他者からの進言や助言を受け入れることができる柔軟さを再確認していただけたように感じました。

【おわりに】

急遽開催が決まったセミナーでしたが、「できるだけ自前の会員の手によって完結する」という強い意志により、結果として今回ご協力いただいた



認定審査のポイント(全連佐々木理事長)



修了証の授与

会員間の距離が縮まり、組織としての連帯感が築けたと思います。この連帯感と達成感は、実行委員会の準備会から運営会議当初では思いもよらぬ「かけがえのない副産物」となりました。

「教育とは、知識や技能を教え込むのではなく、自分を含む人を育てるもの」との視点に立った活動を基本に据え、この事業を機に他の会員との交流を深め、新たな入会者の勧誘と育成に努めようと思います。

この機会を与えて下さったすべての方に感謝いたします。ありがとうございました。

環境教育インストラクター応募資格取得セミナーを受講して

ふくおか環境カウンセラー協会 稲益 崇

私は、今回、自分自身の環境教育の裾野を広げるために「環境教育インストラクター」の資格を取得したいと考えて、その資格に応募するために、必ず事前に参加することが必要な応募資格セミナーの受講を希望し、福岡会場で受講しました。

受講期間は、2016年2月27日（土）28日（日）の2日間で、様々な経験をお持ちの講師の方の体験談や、実践的なテキストを基にした大変すばらしい内容のセミナーでした。

この、事前のセミナーを受講して「環境教育インストラクター」に応募をしたわけですが、2日間、しっかりと、この「応募資格取得セミナー」を受講すれば、自然と「環境教育インストラクター」の応募に必要な技術が全て身に付いてしまうという素晴らしいものです。

応募に必要な考え方や文章の書き方、まとめ方が実践的に紹介、事例なども簡潔にまとめられているため、思い悩まずに書類を作製し、提出することができました。

本当にありがとうございました。あとは、「環境教育インストラクター」に合格していることを祈るばかりです。

活 動 報 告

緊急報告会(パリでのCOP21)に参加して

ふくおか環境カウンセラー協会学術会員 植木 康太

（特非）環境カウンセラー全国連合会（ECU）理事長、佐々木進市様より、私も会員である「ふくおか環境カウンセラー協会」に連絡が入った。

12月12日、パリでのCOP21で世界150ヶ国の参加国全員の一致で採択されたパリ協定の日本交渉団の環境省地球環境局国際地球温暖化対策室、福井和樹様より報告を受け意見交換会を行う、とのこと。

これは行かねば、そして世界の最先端に触れ、これからの議員活動とボランティア活動への糧とせねばと早速申し込みをした。

3月5日、神田駅の北口の「エッサム」というビルの一画で、約20名の全国から馳せ参じた環境カウンセラーが、COP21の交渉担当者である環境省地球環境局国際地球温暖化対策室長、大井通博（急遽変更）さまの講話にのめりこんだ。

京都の地球変動の議定書（COP3、1997年）以来の枠組み構築に向け、パリで世界の首脳たちが集まり2週間に及ぶ交渉の元、採

択に成功した協定の臨場感に満ち満ちたお話、感動した。



COPの歴史から始まり交渉の経緯と内容の説明が、交渉過程の難しいやり取りをはさみながら報告された。内容は以下のとおりである。

COP21におけるパリ協定の採択

●COP21（11月30日～12月13日、於：フランス・パリ）において、「パリ協定」(Paris Agreement)を採択。

✓「京都議定書」に代わる、**2020年以降の温室効果ガス排出削減等のための新たな国際枠組み。**

✓歴史上はじめて、**すべての国が参加する公平な合意。**

●安倍総理が首脳会合に出席。

✓**2020年に現状の1.3倍の約1.3兆円の資金支援**を発表。

✓2020年に1000億ドルという目標の達成に貢献し、合意に向けた交渉を後押し。



●パリ協定には、以下の要素が盛り込まれた。

✓世界共通の**長期目標**として**2℃目標**の設定。**1.5℃に抑える努力を追求すること**に言及。

✓主要排出国を含む**すべての国が削減目標を5年ごとに提出・更新。**

✓我が国提案の二国間クレジット制度(JCM)も含めた**市場メカニズムの活用**を位置付け。

✓**適応の長期目標**の設定、各国の**適応計画プロセス**や**行動の実施**、**適応報告書の提出と定期的更新。**

✓先進国が資金の提供を継続するだけでなく、**途上国も自主的に資金を提供。**

✓**すべての国が共通かつ柔軟な方法で実施状況を報告し、レビュー**を受けること。

✓5年ごとに**世界全体の実施状況を確認する仕組み**(グローバル・ストックテイク)。

16

①京都議定書との大きな違いは、最大のCO2排出国である米中が参加したということ。

これだけで世界の排出量317億t（2012現在）の42%に達し、実効性が担保されること。

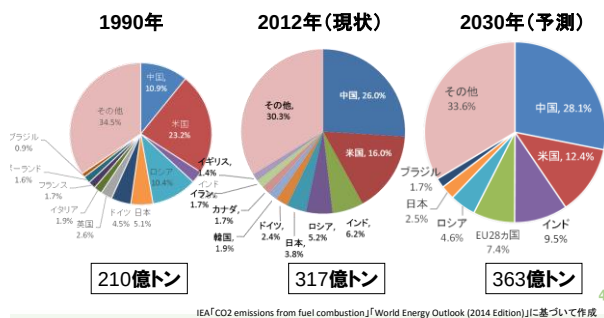
②地球温暖化の世界の長期目標として産業革命前からの地球平均気温上昇を2℃と目標値を設定。

③同じ目標値で全体を縛るのではなく、各国が自らの削減目標値を設定し、それに向かって努力することで決着。

④日本の削減目標は2030年に2013比△26%（エネルギー部門△28%、家庭・オフィス部門△40%）を決定。これに向かって政策を立てることとなった。

世界のCO2排出量

- ◆ 世界全体の温室効果ガス排出量のうち、米中2カ国で世界の40%以上を排出。
- ◆ 気候変動条約締結国194か国中、我が国は第5位の排出国（1990～2012年）。
- ◆ 今後の排出量は、先進国は微増なのに対し、途上国は急増する見込み。



パリ協定の特徴・意義

すべての国に適用され、 (Applicable to all)

従来の二国論を超えて、「共通だが差異ある責任」原則の適用を改善
・多くの規定が「すべての国」に適用
（一部に「先進国」「途上国」の書き分けが残るも、具体的な定義なし）

包括的で、 (Comprehensive)

緩和（排出削減）、適応、資金、技術、能力向上、透明性の各要素をバランスよく扱う
・緩和、適応、資金に関する3つの目的を規定

長期にわたり永続的に、 (Durable)

2025/2030年にとどまらず、より長期を見据えた持続的な枠組み
・2℃目標、「今世紀後半の排出・吸収バランス」など長期目標を法的合意に初めて位置づけ
・長期の低排出開発戦略を策定

前進・向上する。 (Progressive)

各国の目標見直し、報告・レビュー、世界全体の進捗点検のPDCAサイクルで向上
・世界全体の進捗点検（長期目標）を踏まえ、各国は5年ごとに目標を提出・更新
・従来の目標よりも前進させる
・各国の取組状況を報告・レビュー

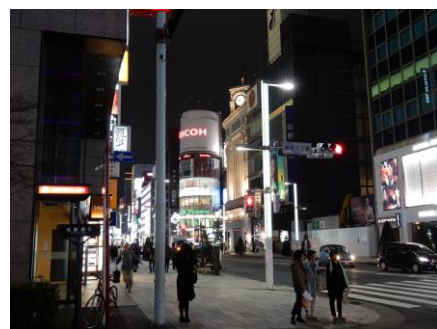
世界の気候変動対策の転換点、出発点

私としては、福岡県の温暖化防止活動推進員を拝命していたこともあり、未来の地球のために市や県や国や様々な団体と手を合わせて温暖化防止に努めてまいりたいと改めて決意したところである。

会議を終え、ホテルへの途中、約30年も前に時々来ていた街の姿がまるで変わってしまった「銀座」を散策することになり、第二のふるさとへの郷愁を覚えた次第。

今回の研修はグローバルな視点と国の最高決定機関の高度な交渉の姿の片鱗に触れることが出来、久しぶりに満足の行く内容であった。

参加できたことに対し感謝申し上げると共に、この学びを活かすよう頑張る所存である。 平成28年3月10日



注：COP：《Conference of the Parties》：条約を批准した国が集まる会議。一般に条約ごとに設けられる、その条約の最高意思決定機関。「COP5（第5回締約国会議）」のように、末尾に会議の開催回数をつけて表す。[気候変動枠組条約締約国会議](#)や[生物多様性条約締約国会議](#)などがある。

活 動 報 告

ビオトープ管理の講師として持続可能な社会作りを！

ふくおか環境カウンセラー協会 力武 和夫

○西日本短期大学での授業

平成23年から”ビオトープ管理”授業を受け持つようになりました。荒廃した園地を、ビオトープの視点から見直し、整備・維持管理を楽しくやっています。

座学で”ビオトープとは何か・生態系サービスとは何か・生物多様性は何故必要か”などをパワーポイントを使って説明しております。

現場では、1年目は藪の整備をしたところ、蛍が大量に発生し、2年目はトンボの池を作ったところ、アカハライモリが棲みつきました。今年は、維持管理した草類をたい肥化するための竹柵を作りました。もしかしたら、カブトムシが卵を産みにくるかもしれません。

授業を通して環境の大事さ、そして持続可能な社会作りについて理解していただきたいと思います。

○ビオトープ塾

NPO法人さかの樹エコトープSATOMORIの活動に参画しました。朝日テクノの社員サン達、一般市民の人たちが受講されました。ビオトープについての関心が広まっているなど嬉しく思っています。特に、コンサルタントの土木・森林土木の調査、設計業務に係わる技術者が生物多様性についての理解を深めていることは素晴らしいことだと思っています。



活 動 報 告

平成27年度福岡県環境県民会議

「生きものの調査分科会」の報告

福岡県民会議「生きものの調査」分科会長
ふくおか環境カウンセラー協会 理事 近藤 哲司

平成27年5月14日（木）第1回会議、

（1）平成26年度結果報告

別冊「ふくおか生きものを見つけ隊」2014年度結果報告書参照

（2）平成27年度県民参加型生きものの調査

「ふくおか生きものを見つけ隊」の実施について
調査の目的

身近でわかりやすい動植物の生息状況を調査することにより、子供たちなどが生物や自然に対して関心を持ち、生物多様性について理解する契機とするとともに、その結果を外来種対策など生物多様性保全の基礎的な資料とするもの。

平成26年度のテーマは、身近な生きもの15種を見つける＝初級編

平成27年度のテーマは、里山の生きもの20種を識別する＝中級編

主な調査時期

初級編：平成27年4月～10月（平成26年度の調査を継続）

中級編：平成27年7月～10月

夏休み前後の方が観察しやすい種がいるため、平成27年度は昨年度に比べて調査期間を1ヶ月延長

11月以降も報告は継続して受け付ける



中級編の調査対象種

中級編の里山の生きものは20種

どんぐりの仲間8種、セミの仲間5種、クワガタの仲間3種、大型のクモ4種

中級編は近縁の仲間を識別するのが目的→多様性の認知＋生息環境の違いの発見

→生きものや自然に対する興味・関心を高める

平成27年度「ふくおか生きもの見つけ隊」のスケジュール

2月中旬 モデル校募集及び県内小学校へチラシ配布（済）

3月下旬 平成26年度調査結果報告書作成、参加者への送付（済）

参加者全員に送付

平成26年度参加者へ調査継続実施依頼（中級編の紹介）（済）

参加者全員に依頼書送付

（家族、モデル校での参加の場合は代表者に1通）

3月下旬～4月中旬 広報依頼（市町村、県）（済）

4月1日～ 初級編調査継続実施

5月14日 第1回生きもの調査分科会（ガイド案の検討）

5月下旬 募集チラシ配布、配架 県内小学校各学級、小学校5・6年生配布
博物館等施設、青少年教育施設配架

6月中旬 調査マニュアル配布（参加者全員）

7月1日～7月31日 募集チラシコンビニ配架（予定）

7月1日 調査開始（10月末まで実施予定）

9月中旬 調査中間報告（8月末時点）

11月末 調査結果速報公開

11月末 第2回生きもの調査分科会

3月下旬 調査結果報告書送付

平成28年1月21日（木）第2回会議

（1）平成27年度ふくおか生きもの見つけ隊調査結果について

参加者数：1,304人（前年度：1,000人）

報告件数：5,155件（前年度：1,000件）

平成28年3月末までの予定としては、報告書作成と公表、

隊員への報告書の発送とする。

（2）「ふくおか生きもの見つけ隊」平成28年度調査計画（案）

調査目的：身近でわかりやすい動植物の生息状況を調査することにより、子供たちなどが生物や自然に対して関心を持ち、生物多様性について理解する契機とするとともに、その結果を外来種対策など生物多様性保全の基礎的な資料とするもの。

・平成26年度のテーマは、身近な生きもの15種を見つける＝初級編

・平成27年度のテーマは、里山の生きもの20種を識別する＝中級編1

・平成28年度のテーマは、水辺・草地の生きもの約20種を識別する＝中級編2

調査時期 ・初級編：平成28年4月～12月（平成27年度の調査を継続）

・中級編1：平成28年4月～12月（平成27年度の調査を継続）

・中級編2：平成28年7月～12月

終了時期は、報告書集計時点（平成28年12月31日予定）

中級編の調査対象種：中級編2の水辺・草地の生きものは、約20種を予定
（ガマ3種、カラスウリ2種、サギ5種、カエル5+1種、カマキリ4種）

中級編は近縁の仲間を識別するのが目的→多様性の認知+生息環境の違いに気づく
→生きものや自然に対する興味・関心を高める

今後のスケジュール

- | | |
|-------|---|
| 1月下旬 | 平成28年度モデル校募集 |
| 4月～ | 初級編・中級編1の調査継続実施 |
| 5月初旬 | 第1回生きもの調査分科会開催 |
| 5月下旬 | 募集チラシ配布・配架
(県内小学校各学級・5年生へチラシ配布、コンビニ・青少年関係施設・博物館等へ配架) |
| 6月1日 | 隊員募集(記者発表)県HP、電子メール、FAXで参加申込み受付開始 |
| 6月中旬～ | 調査用生きものガイド・隊員章配布 |
| 7月1日 | 中級編2のいきものログへの投稿受付開始 |
| 8月 | 自然観察会の実施 |
| 10月中旬 | 9月末までの調査結果中間発表(記者発表) |

表 彰

おめでとうございます！

当協会、会員及び関係団体が表彰されました！

【福岡県より】

平成27年度 福岡県 環境保全功労者 知事表彰

受賞者 団体 特定非営利活動法人ふくおか環境カウンセラー協会
個人 篠原貴美恵環境カウンセラー

【環境カウンセラー全国連合会より】

平成27年度 環境カウンセラー全国連合会(ECU) 理事長表彰

受賞者 依田浩敏環境カウンセラー・理事長【環境保全功績者賞】を受賞
角谷忠彦環境カウンセラー【環境保全功労者賞】を受賞

【環境省より】

平成27年度 環境省 環境保全功労者表彰

受賞者 団体 環境カウンセラー全国連合会【環境大臣賞】を受賞

※当協会が所属している環境カウンセラー全国連合会は、全国の30の環境カウンセラー団体の会員からなります。

研修会等の活動

環境省平成27年度九州ブロック環境カウンセラー研修

○期 日：平成27年11月4日（水）10：30～16：30

○場 所：九州地方環境事務所（会場：熊本合同庁舎B棟）

環境省主催の九州ブロック「平成27年度環境カウンセラー研修」が、例年通り行われました。

基調講演は、(独)国立環境研究所 社会環境システム研究センター環境経済・研究室 主任研究員 久保田 泉氏による演題「I P C Cの第5次報告の要点と各国の温室効果ガス排出量削減目標及び我が国の主な施策（C O P 2 1を目前に控え最新情報）」。

分科会は「地球温暖化適応策」、「温暖化啓発と学校と連携したESD」、「地球温暖化・生態系への影響」、「地域における地球温暖化対策の取り組み」の4つでした。

第1分科会では、(一財)九州環境管理協会環境部計画課主任研究員 保田武彦氏の話があり、意見交換では、当協会から依田 浩敏理事長がファシリテータとして仕切りました。市民を巻き込んだ更なる活動の躍進について、現状や悩み、解決方法等、有意義な討議が行われました。

事務局だより

このたび当協会は、福岡県より『福岡県環境保全功労者知事表彰』を受けました。会員の皆様をはじめ関係各位に心より御礼申し上げます。

こどもを対象とした「子どもエコサイエンス教室」やこどもエコクラブ活動支援の取組、宇美町の巨樹の保全をテーマとした環境学習会など、県民や子どもに対する環境教育・学習に関わる事業を積極的に展開していることを評価していただきました。

今年度は、特定非営利活動法人環境カウンセラー全国連合会（ECU）からの要請により、『環境教育インストラクター応募資格取得セミナー』を福岡市で開催しました。遠くは由布市より参加いただいた方を含め、23名の受講生がありました。受講生の環境教育インストラクターとしての活躍を期待するとともに、協会の活動にも関わっていただければと思います。

また、多様な専門知識を持つ会員どうしの情報交換・交流を図ることを目的に、昨年7月より月1回の定例会を開催することとしました。今後は会員外にも門戸を広げていきたいと思いますのでご協力をよろしくお願いいたします。

理事長 依田 浩敏

◆会費納入のお願い

「ふくおか環境カウンセラー協会」は会員の皆様の会費で運営されています。また、全国連合会費も会員数に応じて支出しています。会費未納の方は至急納入してください。

年会費 3,000 円 振込先：郵便貯金総合通帳「ぱるる」

記号 17410 番号：13271061 名前：ふくおか環境カウンセラー協会

◆準会員 並びに 賛助会員 募 集

準会員：会費（1口2千円） 賛助会員：会費（1口1万円） 学会会員：会費なし

発行責任者： 依田 浩敏 （編集責任者： 森本美鈴）

連絡先：〒813-0017 福岡県福岡市東区香椎照葉2-3-36

TEL/FAX:092-672-9911 メールアドレス：feca.office@gmail.com